始

339
208

TRANSLATED

From

POLITICS AND MORALS

政治と道德

ポリチック アンド モーラルス譯

政治と道德

東京 文影堂

大正
2.5.15
内交

政治と道德

政治哲學

國政の主宰者若くは政治家が哲學者たるべきものなりや否やは現代に於て猶ほ興味を失はざる問題である。歐羅巴並に亞細亞の諸國に於て古來政治上の權力と思索考察の力を一人に正當に兼ね有した者もあつたが、此等の性質の兼併を誤りたるものも亦尠しとしなかつた。或種の考察力は日常生活にも政治生活にも共に必要である。彼の「オエドルス」中に掲げある脩辭家の如くに、人々は人間の性格が人毎に異なるものなることを合點して、大事變に際會しては普通生活の凡庸以上に向上せさるべからざるものである。されど哲學者的政治家の觀念は嘗て衆人に歡迎されたことがない、何故かと云へば一面に此の種の政治家は世人を深く信ずることが出來ない

か、若くは自己の行爲の動機を世人に理解せしめ得ないのと、他面には又世人の方でも此種の政治家が世人が理解することの出來ない一種の力を有することを嫉視するからである。普通人間の性質上多年の間に徐々に成就せむと欲する革命と雖も稍もすれば此種の政治家は僅かに一年間若くは一代の内に成就することあり。世人は彼が自己の抱ける大目的を遂行せんか爲めには、人類に通有の感情を無視し兼ねまじきを懼れる。彼は稍もすれば遠き未來や過ぎ去つた昔の事ばかりに目を注いで、「プラトー」の所謂脚下に轉び落つる動作や出來事を往々にして閑却するの傾がある。尙ほ此の外にも「プラトー」の云へる如く、此種の哲學的政治家には他の種々な弊害が伴つてゐる。或は決心の生得の色合が蒼白き思想で病氣づいてゐる、而して何は扨て措き行爲が肝腎な場合に臨んでゐながら而かも優柔不斷である、或は政策の變更を掩はんが爲めに一般原理の講義を始めかゝる、或は世間を知らない爲めに容易く他人の術中に陷ゐる、或は場合によりて彼は宮内官に心にもなく宗旨替をする

ことになる、而して宮中深く立籠りて自己自由の意見を抱き得るの榮華を樂み得ても、今となりては最早自由の手腕を振ふ餘地は存しないこととなる。世人が此の種の政治家を呼んで衒學者、詭辯家、談理家、若くは妄想家とするの風あるは一向不思議とするに足らない。何となれば「プラトー」の語を聊か滑稽化して、吾人は次の如く言ふても差支はなからう、世人は哲學的政治家の面白からざる實例を見た事はあるが、併今迄同樣に未來に亙りても、思索と行動の力が申分なき平均を得て、立憲國を支配する人は嘗て見當らなかつた。されど哲學者が兎角政治生活の俗務に失敗し易き傾ある如くに、普通の政治家は又非常の危機に臨みて同じく失敗し勝ちである。世界の表面が低氣壓を示めし、雷鳴が遠くに聞こえ出しても、普通政治家は依然として舊慣を守るの外はない、而して深く根を固めた偏頗なる僻見に囚はれて少しも融通が利かなくなる。彼は時勢變動の徵候を察することが出來ない、前方を見なければならないのに後方を顧みる、何事をも學び得ない代りに何事をも忘れ

ない、だから所謂金言とか手近かき事例とかを持ち出して大變革の潮流を防ぎ止めようとする。世間の反抗が強くなるにつれて、愈々益々彼は同臭味者の圈内に隱れてしまふ。これ何故に事物の舊態が新事に比してかくまでも見劣りがするのか、何故に敎會の改革が出來ないのか、又何故に多くの政治上の改革が理非を別たず無理無態に行はれるのかの理由であるように思はれる。

歷史上に屢々見る所の大危機は宗敎に關して進んで改革を行行はんとする運動、及び之れに對して既に國民に服從を强ゐ得る力を失つた主義を一層執拗に猶ほも押し着けようとする行動とに基くことが尠くはない。此の反動的政治家の固定せる思想は狂氣にも較ふべきもので、此の思想が一旦彼に起る以上は、彼は即座に此の思想に捉はれてしまう、他人の判斷の如きに至りては之を容れて自己の偏せる判斷に照らし幾分たりとも之れを矯正するの料に供しようなどゝは思ひも及ばないことだ。

「プラトー」は、近代の學者の眼から見れば、思想の混同であると思はれるものゝ影響を受けて、國家を個人と同一視し、政治學と道德學との區別を誤まつてゐる。彼は一個人の場合に市民が何處迄も同一型の性格を具有してゐる事が可なる如く、國家にとりても斯る狀態が最も望ましことと考えてゐる。彼は此の比較論が一部誤つて居り、且つ國家若くは國民の意思若くは性格は各個人の意思の平均若くは寧ろ剩餘に過ぎない、而してこの意思も合同的に行動しなければならない爲めに制限されざるを得ないといふことを合點して居ない。一團體を爲せる人々の運動は到底一個人運動の如くに自由自在に容易く行はれ難い、さなくとも常に制限されてゐる個人の自由は、更に國民となるに至りて猶ほ一層束縛を受けることゝなる。行動及び感情の力は一社會全體に押しならすと是非共弱きもの一層平均したものとならざるを得ない、されば屢々議論の種子となつた問題が起つて來る、即ち一國民は、一個人の如くに良心を有ち得るや否や、是れである。吾人は國民の性格は之れを組成する一個人の性格の總計に過ぎないものであるといふことを斷言するには聊か躊躇せざる

を得ない、何となれば個人の間には互に相反對する性格があつてその爲め差引勘定を爲なければならない傾向が有り得るからである。國民全體から云ふと其の內のどの一人よりも賢明であるかも知れない、或は假りに一個の人なりせば其の心に斯くも影響しなかつたかも知れないのに全國民としては或る合同の意見若くは感情の爲めに鼓舞されるかも知れない、或は人間以上の行動を仕遂ぐるやうに天才ある首領に激勵されるかも知れない。「プラトー」は人類の集合行爲から起らざるを得ない複雜な事柄を分析し得たとは思はれない。彼は此較論が議論としては立派だが事實上の基礎が薄弱なることを認め得なかつた而已ならず、其の上に思想上には如何に分曉し得べく若くは生々と現存するものでも、之れを眞實であるといふものと較べて區別をつけるといふことも亦出來なかつた。此の點に關しては彼は誤りたる比較論には滅多に陷ゐらなかつた所の彼の「アリストートル」の遙かに下位にあつたと云はなければならぬ。「プラトー」は又道德と藝術とを明白に分離することが出來なか

つた、少くも彼はいつも一方から他方に議論を推し及ぼしてゐる。音樂に關する彼の觀念は音の諧調に關聯して遂に生治の諧調に推論されてゐる、之れを爲すに當りて彼は言語の兩意あること並に「ピタゴラス」派の說の流行によりていやが上にも誤まられてゐる。而して一旦國家を個人と同一視しては、遂に彼は個人の生涯に生老病死のあると同じ樣に國家の生命繼續にも盛衰興亡の理あるを發見し得ると想像してゐる。されど猶ほ此の誤謬ある中間物の介在に由つて偶ま觀念の眞正なる擴大に到達するを得た。彼の道德が思想上に於て是迄に明白なる觀念となつてゐなかつたのに、之れを藝術と比較するに至つて大なる進步を爲すを得た、何故かと云ふに道德は藝術の一部にして、內部の主義と相照應して外部の形態を具えてゐるからだ。かくて諧調ある音樂は諧調ある世間並に人生の正しく生きたる肖像とも見做すを得て、立派なる說明として考えられたが、是れが遂には比較論に眞相を誤らしむる虞となつた。同樣に政治學と道德學との同一視は道德學の意義を限定し、且つ政府の目

的及び公民の義務に關する人々の觀念を向上せしめ且つ高尚にする傾向を有つた、何故なれば道德學は一面より觀察すれば理想化したる法律及び政治學と思はれ、又政治學は人類社會の情態に應用したる道德學とも思はれ得るからだ。併此の兩者を同一視せんとするより起る免かれ難き弊害ありて、爲めに多者を相分離し相反撥せしむるに至つた。而して此の事は近代の政治學者により紹介されたことだ。されど吾人は同時に此の分離の爲めに失へる所も亦少なくないこと丶且つ古代の哲學者が人類の道德上及び知能上の幸福を第一位におき、國民及び個人の富を第二位に下して、之れに由つて近時の理論に健全なる感化力を及ぼし得たことを、感ぜざるを得ない。斯くて古來多くの政治上の格言が反對の誤謬に對して反動として發生した、而して此の格言にて訂正せんとした誤謬が次第に無くなると、今度は又其の格言が順番に誤謬に陷ゐるに至るものだ。

人生に於ける理想の價値

人間の生涯と行動は卓越せる人物の行跡によりて影響さるゝと同じ樣に理想によりて影響さるゝものだ。理想や行跡は直ちに實地に適用し得ない、併之れより流れ出づる一種の力が在つて個人を社會普通の課程若くは職業以上に起し、國家を單純なる商業上の利害若くは自己防衛の必要以上に高める傾がある。藝術の理想の如くに人生の理想は特殊な諸點を省略して部分的に組立てられ、一定の距離を隔て丶眺めらるべきもので、之れに近づかうとすると次第に消え失せる傾がある。理想は國家若くは哲學の系統中に合體せしめると想像上には如何にも明瞭なものとなる、されど實現されない世界の幻影たるに過ぎない。常人にとりて一層顯著で明白なるは、其の當代に功勞ありて後代の記憶に存する偉人の行跡である。現に吾々の家庭にさえ人間以上の善良が其の顏に輝いてゐる婦人や小兒が居ることがある。斯うなると理想

は益々吾人に近づき、吾人は喜んで之れに執着する。過去の理想は、個人の生涯に關するものでも國家の狀態に關するものでも多數の人心に對して一種奇妙な眩惑力を有つものだ。此等の理想は之れを想起すれば他の時代を醇化するの力を有するものなれど、之れを再び實現することは出來ないものだ、吾人は此の事を知り得ることの遲きを憾む。乍併哲學上の抽象論は多數人には興味なく空漠なもので、光りは發しても溫か味がない、恰かも星なき空の月の如きものだ。人は思想のみでは生活し得ない、感覺の世界は絕え間なく吾人に迫まつて來る。人は多くは土地の片隅に閉ぢ籠められ、自己の住宅住所以外は殆んど見ない、眼を高處に轉じもしなければ、曙光が現はれても目醒めもしない。而るに「プラトー」に於て吾人は遠方を眺め世界及び哲學の未來を臨み得る高處に達し得た。國家及び哲學者の生活の理想、生涯を通じ男女に亘る敎育の理想、智識の統一及び相關の理想、善及び不滅に關する信念、此等は「プラトー」が人類に注目せしめんとする光明の朦朧なる外形である。

此の外猶ほ他に二個の理想があつて、希臘哲學に於ては地平線上に現はれなかつたが、近代になつて之れが人々の心の中に浮び出た、一方の理想は恰かも年毎に世代毎に吾人を或る大なる變化に近つけるが如く、以前よりも一層鮮明に見ゆるに反し、他は自然の法則に壓迫さるゝ如くに殆んど同じ程度で其の背後に隱れるが、併猶ほ人の心中に潛みて其の本體の何たるかは窺ひ知り難き或る者に對する默したる希望となりて殘つてゐる。此の第一の理想は現世に於ける人類の未來で、第二の理想は他界に於ける個人の未來である。前者は吾人目前の生活の一層完全なる實現で、後者は其の否定である、一は經驗の範圍內に限られ、他は之れを超越する。兩者は共に行爲の力强き動機にして、あらゆる俗世間の利害を之れに換えて顧みない人々は少數ながら存在してゐる。此の二つの動機に就き、一方に人類の未來に對する希望は一見利害相關せざるもの丶如く見え、他方に個人存在の希望は一層主我的に見える。されど人が一旦自己の未來に對し若くは所謂自己の意思ではなく爾の意思即ち神の

意思の儘なる世界の未來に對し、希望を確定することを知り得るに至れば、兩者の差異は消え失せて、其の孰れをなりとも自己の性格氣質に從つて、生活の基礎とすることが出來るやうになる。現世界の未見の未來を目當として働かうとする欲求に對しては、他界に對する信念と同じ程な信念があるものだ。或種の天性を稟け得た稀有な人があつて、他の時代若くは他の國に對する自己の義務を自己の時代若くは自已の國に對すると殆んど同じ強さに感じ得るといふこと、或は又常に神の面前に生活して他界を現世同樣に生々と實現し得るものだといふこと、此の二つの事は共に到底想像も及ばないといふ程な事柄ではない。

一體凡ての理想中にて最大のものは人類の性質は互に相類似せるものなれば、大抵は吾人によりて想像のつき得るものだ、否寧ろ想像し得ねばならないものだ、尤も時としては彼の猶太の豫言者の如く、吾人は以上の說話の體樣を排し神の性質を否定辭を以てのみ描き得ることも有り得れど。されど此等の否定辭も再び次第に肯定の意味を得るに至るものだ。哲學や宗敎の高尙なる眞理を考ふるに當りては、國語の必要に驅られて單に言葉の奴隸となるを虞れて、吾人は叙法の一形式に代へて他の形式を用ふるとも、それには差支はなかるべきだ。

更に又第三の理想がある、同樣ではないが、前二者に頗る類似してゐる、此の理想は基督敎の各信者の心中に存するものだ、而して此の理想の中に人々は一層手近く且つ親しみ易き眞理を發見するらしく見える。此の眞理とは即ち、所謂神人、人の子、人類の救世主、此の人は天國と地上を包括する全家族の中で最初に生まれて其の首長となるもので、此の人には神と人間、即ち吾人の現世的能力の範圍內にあるもの及び範圍外にあるものが不可分的に結合してゐる、斯樣な人に關するものだ。善の此の神的形體は、新約全書に彼の體即ち神體と呼ぶ所の基督敎會の理想からも全然分離され得べきものでもなければ、又「プラトー」が吾人に示めした他の善の影像とも別種のものではない、吾人は彼を只模型に於てのみ見るを得、言葉の體樣に

就ては只僅かの而かも最も簡單なものを彼の陳述として擇び取る。吾人は彼を繪に見るが、併し彼は繪の中に居る譯ではない。吾人は彼の談話の斷片を拾ひ集めるが、併其の斷片は彼の眞相を有りの儘に表はすものでもない。彼の住所は天にもなければ地にもない、只人間の心の中にあるのみだ。是れぞ正しく「プラトー」が遠方に朦朧と認めた影像で、此の影像たるや人間界に存在する時に、古今を通じて人類が自己よりも一層偉大にして且つ一層善良なるものと感じ得た一種の自然物の肖像といふ意味で「プラトー」が「ホーマー」の語を假りて神の肖像と呼んだものだ、而して或は聖書より若くは自然界より、或は歴史を證據にとり若くは人の心より抽き出し、或は人間として考へ若しくは人間にあらずとして考へ、或は才能感情を有するものとし若くは之れなきものとし、或は空間的に存在するものとし若くは存在せざるものとし、其の形態にこそ千變萬化の差別はあれど、等しく人類にとりて善の理想となり、且つ常に善の理想として存續すべきものである。

偉大なる行政官の特性

他の點から觀察しても亦「サー、ロバートピール」の性格は吾人の描いた地位に最も適してゐた。彼は偉大なる行政官であつた。世が文明に赴むくにつれて此の如き人物は無くてはならないものだ。單純な時代には仕事は六ヶ敷かもしれぬ、されどそれは偶さかのことだ。人民の數も少ければ、各人の欲する所も僅かのものだ。而るに文明のほんの道具立に過ぎないものが却ていくらか仕事を增すらしい所がある。昔の時代に、或る專制君主が遠くにある州を治めようと思ふと、彼は太守を大きな馬に乘せ、他の人々を小さい馬に乘せて派遣する、かくなる上は太守が自分のして居た事を報告する爲めに下僚を送り歸へしでもしなければ、太守の噂は滅多に聞えることがない。大仕掛の監督はそようぞにしようがない。通り一篇の評判と偶まさか聞こゆる人民の不平の聲が事實を知り得る種子となるばかりだ。その州の政治の模

樣が惡るかりそうだと、太守壹號を呼び戻して、太守貳號を代りに派遣する。これが文明國だと大變な違ひだ。假りに汝が露國皇帝であるとして、先づ汝は治めようとする州に一局を設ける、汝は其の局に書面を書かせ書面を寫させる、其の局は毎日八回の報告を「ペテルブルグ」の主局に發送する。誰れか州の方で勘定をしてゐる者があれば頡度同じ勘定を主部の方でもやつてゐる、それは彼が誤魔化しでもすれば直ぐ樣に王手を打ち彼の勘定が間違ひはしないかを監督する爲めだ。斯うした結果は只本省の長官たちに山なす讀み物と骨折の種子を投げ掛けることとなる、此の長官の仕事は偉大な天禀の適格、最も利き目ある訓練、最も確かで規則立つた勤勉、此等を兼ね具へなければ到底仕遂げ得ることではない。自由政府の治下であると之れよりはましだとは迚ても云へない、恐らくは見樣によりては今少し惡い方だ。多くの問題に就きて、佛國專制時代であるとすると、巴里に問合はされるものでも、之れが英國だと其の問題が實地に處理さるべき其の場處丈で、少しも倫敦に關係なく、決定されると云ふことはある。されど全權者でない資格上已むなく、立憲國の行政官はいつも他人に相談を掛け通しでゐねばならない、この人はどう考えでゐるか、かの人はどう考えてゐるかを探り、又B卿はどんな謬見を抱きC卿はどんな謬見を抱いてゐるかを知り、此のB卿C卿の謬見を寄せ集めて、扨其の上で彼が自分で是非かくしなければならないと思ふ事の幾分程を諸卿凡てが彼になすを許すだらうかといふことを合點しながら、かくも煩雜なる手數を掛けて上述の如くに、いつも他人に相談を掛け通しでゐなければならない。又之れと同樣に、自由政府は臣民に對して個人の自由並に個人の自由行動を許すから一見政府の爲すべき仕事を如何にも減少するらしくも思はれるが、併他から思ふ程に眞實又結局仕事を少なくするかどうかは疑はしいものだ。個人の自由行動は其れ相應に自然と多くの職業を敲き出すから從つて其れ等の職業について夫れ々々いくらかづゝの取締りをいつもしてゐなければならない。專制政府にありては、あんなに澤山の人民を安穩に保ち監督

し取締をするに充分な彼の倫敦の警察力の如きは到底思ひも及ばない事だ、併又專制政府は倫敦の樣なあんな大都會を安穩に保つ要もありやうがないのだ。成長の自由は又成長の機會を增すもので自由政府は人民に對して比較的僅かな面倒を見るけれども、人民自由の行動が絶えず繼續する爲めに政府の作業の規模がそれだけ擴大して、正味の仕事は結局恐らくは餘程大層な事になる。專制政府は十人の行爲につきて十分の一の監督をしてゐるのに、自由政府に在りては百人の行爲につきて百分の一の監督をしなければならない。其の面倒も亦增して來る。何人たりとも粗笨な專制國の社會組織を容易く理解し得る、即ち購買階級をなしてゐる少數の貴族、販賣階級をなしてゐる少數の商人、それと生產階級をなしてゐる多數の農奴で、地球上何れの地方にゆきても大概は一樣なものだ、併自由や知能の發達せる社會は分岐せる諸種の關係の複雜なる網の目の樣で、新事や舊物、其の中には精緻なる都市の施設もあれば粗大なる農業上の經營もある是等があちらこちらと互に入り合ひ入り亂れて紛糾錯雜を極めてゐる。何か一種の力が加はるか一種の變化か起るとこの巧妙で複雜せる組立物に如何なる結果が生起するかは汝の迚ても知り得る所ではない。汝は其れを治め得るかも知れないが、大層な面倒、骨折、又責任のある大仕事に違ひない。苟も斯樣な事に從事する人は何人たりとも自身の業務の面倒さ故に其の日に爲した所は善い事よりも惡い事の方がどうも多かつたといふ事を思ひ出さずに、安じて枕に就くといふやうな事は有りようがない。「サー、ロバート、ピール」が此等の義務につき如何なる見解を有つてゐたかを、彼自ら吾人に語つてゐる。假りに首相の場合を想像して見よ。汝は各外國の宮廷から來る各主要な書翰を悉く彼が讀むことを先づ心に持つて居なければならぬ。彼は外務省に起る眞に重要な事は何事にても知り拔いてゐなければ、彼は外務大臣と評議をしたり外交事務の指導に關して役目相當の勢力を行ふことが出來ない。他省に關しても之れと同樣だ、假りに印度を例にとれば、彼は凡て近時の重要なる通信を飲み込んでゐなければ、印

度に關する政策の進行上に首相たる彼が如何にして判斷を下すことが出來ようか。愛蘭土や內務省の場合も之れと同樣だ。次に首相は帝王に屬する任宮權を行使する要がある、此の行使を餘程重大で且つ價値あることと、汝は云ふが、それは又尤もの事なのだ、彼は官吏の候補者たる人々の資格を吟味しなければならない、彼は君主との交話に全部當らなければならない、彼は地位ある人々が、躬ら彼に宛てる書面の返事を、自身の手で書かなければならない、彼は國事に關して派遣委員を接見せねばならない、國會の開會中は彼は毎日六七時間、毎週四五日出席すべきものと思はれてゐる、少くも彼は缺席すれば非難を受ける。

凡て以上の辛苦の當然避け難き結果として、其局に當るものは何の意見も有たないといふことだ。凡そ信仰は俄かに得られるものではない。詩人の所謂閑逸が善良であり賢明である爲には必要缺くべからざるものなりといふ事は、重んずべき格言が程善く根どりをすることの出來る餘融のある稍や下級な仕事にのみ須要なものだ。

「ウォーヅ、ウォース」の賢明なる容忍は極普通の事柄には心要だ。假りに汝が或る人の頭を臺帳に縛りつける如く一心に側目も振らさない樣にして、絕えず決算を續けさせ、而して彼が休む度每に月給から一磅宛差引くことにしたすれば、迚ても汝は天主敎の解放問題若くは十分の一稅につきて充分の理解並に「トランス、カウカシヤ」諸州に對する創意的觀念を彼に望むことは不可能なことだ。我が英國の制度は實を云ふと有ろうやうにも無い事を明白に備へてゐるやうだ。知能上に最も人を惱ますものは慣例に過ぐるものはない、最も人を困らせるものは心を奪ふ事物に過ぐるものはない、我が制度は而るに心を奪ふ所の慣例だといふてよい。此事を汝は今示した說明で合點するに違ひない、而してあれで未だ盡してゐないのだ。「サー、ロバート、ピール」は下院に於て一日議員達が相繼續して彼に質問した多數の問題を遺漏なく書面に認めて貰ひ度き事を一度望んだ事がある。其の問題は英帝國に起り得る、若くは議會の一議員の頭に浮かび得る事柄は殘らず網羅したる目錄となつた。

首相の全生涯は斯樣な事件經過の連續に過ぎない。して見ると我國の公人中に意見の不確定といふことが起りかけてゐるといふことよりも、寧ろ我が公人が幾分なりとも其の心に餘融を存し得てゐるといふことが不思議な位である。

吾人は猶ほこの題目を續けて述べ得る。兎も角偉大な行政官といふ以上には其の人に一定した意見を有つことが望めさうな人では迚てもあり得ない。現に存立せる其の上更に詰め掛けてくる事件の情態が彼の心を滿たしてしまう。返答すべき書面、處理すべき文書、作らなければならない備忘錄、此等が彼の注意を獨占して他の事に注意の向けられやうがない。若しも汝が彼の心を擾すやうなことをすれば彼はすぐ怒るに違ひない。或の無鐵砲な人があつて原理に關する事柄、若くは思想上何か六ヶ敷き事、若くは差當り處理しなければならない卓上の事件に關係の有りさうにもない抽象的な意見を忠告でもしやうものなら、空想家、空理家、實社會の邪魔人と爪彈きさるるに極まつてゐる。此の種の人から未來の政策に關する深遠な見解、手近かくない行動の順序立ちたる計畫を聞き度いと望むは、全然彼の天才の何れに存せるかを誤解したものと云はなければならない。こんな事を彼に尋ねるのは株式取引所の仲買人に六ヶ月後の今日の公債の相場如何を問ふやうなものだ。仲買人の心は十分後の相場如何と云ふことを考えて無宙になつてゐる。目前の八分の一の變動が後日の八分の百の變動よりも彼にとりては重要である。同樣に大行政官の頭腦は其の日其の日の些事で自然充滿してしまう、而して彼の先見の明なき氣質は自然と遠謀、空想及び長計といふ種類の事には利害關係なしとして其方には振り向きもしない。勿論かく云ふても、大行政官が絶對に一般的意見を有つてゐないといふ積りではない。實際又いくらかは有つ要がある。詳細の事を整頓するに足る見積なくして詳細な事務を指導するといふことは出來るものではない。彼は自分が進んでゐる方向、並に旅行してゐる目的につきて、空漠なか確精なか、不明瞭なか明瞭なかは措いて問はず、兎も角或る思想を有たざるを得ない。併差異は茲に存するのだ、

即ち彼の有つ設計は種々の苦心の結果にして彼の頭腦の産物たる彼自身の設計であることは稀有の事で、多くは他人の設計を採用するのだ。天は總じて手を休めず働く所の改作的人物には又安心して他人の物を採用し得る性質を授けるものだ。彼は平氣で他人の敎を受け、喜んで之れを聞き、安心して之れを受け入れる。甘んじて事物を輕ろく信ずるは此の種の人々の天性の一面だ、又各人の言ふ所は眞實である に相違ないといふことを疑ふて見る氣にもなれない、所謂民の聲は天然の宗敎の一部をなすと思ふてゐる。だから「ピール」が「パーシバル」や「シドマス」卿の信條に何故屬してゐたであらうかといふことは他人には不思議の一つであつた。何は兎もあれ今日の心理學は諸事に適應し得る才のある一青年が彼の年時のその信條に如何にして到達し得たかといふ經路を說明の仕樣がなからう。彼は時代の衣服を着ける如く時代の信仰を身に纏ふた。彼は「アウトレコート」を厭ふ如く獨創の意見を厭ひ、有り馴れない衿飾を厭ふ如く新思想を厭ふた。彼は自分に眞に關係ある事、即ち自分が手を下さなければならぬと思ふた事に關して特にそうであつた。彼は几帳面な代理人の信條を甘んじて守つた。彼は自身の意見などは毫頭考えない、彼は威嚴ある經驗の皮想的な權威をその儘に承認する。彼思へらく、彼は商會に於て未熟な組合人たるに過ぎない、彼に先ちて數年間管理に從事してゐた人々は正しかつたいふことを疑ふて見ようともしない。斯くして彼は稍や獨立な創意的な人が兎角缺ぎ勝ちの經驗を得ることが出來る。彼の改革案の時、民黨が局に當ることになつ時に、其の黨員は皆實務に適しないとの巧擊の擧が起つたことがある。勿論、永年間官界から遠かつてゐた後の事なれば、官廳的の形式に屬することの專門的知識、即ち公務の練達は有つてゐなかつた。之れを「サー、ロバート、ピール」は「パーシバル」に對する年期奉公時代に手に入れてゐた。彼が青年時代に狹隘な保守黨に加入して居たことは、彼にとりては不利益であつたと考える人もあつた、されど彼の特殊な精神は偏狹な思想に觸れてその爲めに損傷を受けた度合よりも、行政的訓練を得る機

會を得たが爲めに損害以上に進歩の利益を受けなかつたかどうかを疑ふのは尤もな事で、どうも利益を受けた方が多かつたらしい。彼は到底大思想家では有り得なかつたのだ、彼は天が設計した通りのものたなつと、即ち偉大なる事務家である。

政治の回顧

政治史の研究者、特に英人たる研究者に取り興味を呼ぶは羅馬共和國が武斷的帝國と變したる事なりとす。英國人と羅馬人との間には多くの相違を有するに係らず、其本質に於ては互に相類似せり。古羅馬人は唯我々英國人を除き歴史に於て知られたる如何なる國民よりも自治の能力を有したり。彼等羅馬人は彼等自身の自由の力により當時の世界に於て最も有力なる國有となりたり、而して彼等の自由が亡ふるに至りたるは羅馬が征服せる種族の統治者となりたる時にあるものにして自由を以て立ちたる羅馬人は之等被征服種族の上に己れの特權を擴張するを欲せさると共に又之を不可能としたりき。同樣に英國が優勢なりしにもせよ、總ての對峙國が英國に壓伏せられ若くは足下に踏み附けられたるにもせよ、自由に對する吾人の愛着の著明なるか如く又一方に著しく强烈なりし帝國主義的傾向は吾人英國民をして羅馬人

と同しき結果に向つて同しき道を辿らしめたるものと云ふを得べし。若し歴史の中に明に吾人に教ゆる教訓なるものあらば、そは自由の國民は從屬國を支配する能はざるの一事なり。若し自由の國民が彼等の附屬國民に對し彼等自身の有せる憲法を享有せしむるを欲せざるか又は能はざるに於ては其憲法は自ら規定せる本分を空ふせるの理由のみにより其自身破壞すべし。吾人は屢々愚かにも事物の必要に就て語る、而も吾人は吾人自身の愚事や缺點の結果たる現象を見て之を非難するなり、然りと雖其間には意思の誤りにあらざる過失あり、又或る豫知する能はざる狀勢に單に適應する能はざるにより生する過失あり。人間の本性は多くに取りては相等しきものなり、然れども何者に取りても相等しき能はず。其本性は其自身を支持する能はざるが如き高さに向上するを得べし、又安全なる高さにまで退くを得ざるが如き高さに向上するを得るなり。而も限界一度び開かるるや突進して前方に向ふ、而して偉大を追及するに當り調和節度は決して得られず、又決して得らるゝことあらざるべし。

天才の人は其本性により支配さる、即ち彼等は彼等の本性の導く所に從ふ也、而して國民の公生涯は、其眼界に限りありて直接の利害關係が誘ふ毎に其日を行動する政治家累代の生涯に外ならず。其時代々々に於ける通俗の指導者は或る現在の困難若くは現在の顯著なる機會を看取す。彼れ指導者は各個の問題を起り來る毎に處置し將來に現れ來るへき結果は之を後人に殘す。情勢は時を追ふて變じ、而して趨勢は、一度び定まるや決して消滅することなく加速度的の勢を以て新に生し來る也。理性の統率一度び除かるゝや異變は遠からすして來る、而して下は草木の花より上は人間の社會に至るまでのあらゆる有機的萬物あるゆる生涯の形式に於けるが如く、斯くて國民も發達、變化、衰微の循環的軌道を當然通過するなり、シセロ曰く國民は不死無窮のものたるへきものにして永久に其青年の元氣を更新すへきものなりと。然れども國民は或他の自然物の如く、永續するものにあらざるを證せられたり。

成長する如何なるものも、

瞬時に取りて圓滿なり、
して此大いなる現象空虛に歸し
たゝ見る
暗默の力に於て星高く之を說く。

然りと雖も天は地の上に高きか如く、智は愚の上に高し。ゲーテは生涯を、かるた競技に比せり、紙牌は運によりて分配され、競技には一定の規則あり、之等の條件に從ひて競技者は其手並の巧拙により或は勝ち或は敗る。國民の生涯は個人の生涯の如く其時代の圓滿の中に正しく延長することあり、又指導の缺欠、亂暴若くは內部の不統一により忽然として亡ふることあり。されば國民的革命の歷史が經國に取りて重要なるは恰も醫術に取りて病理學の重要なるか如し。醫師は齡の進むを止むること能はず。疾病體に固着するに至りて彼は之を驅逐する能はず。されど彼は病徵を發見するに時を後れさるに於ては凶害の進行を杜絕するを得る也。四肢の不自由となれる位の代價にて命たけは取り止むるを得る也。醫師は吾人が健康なる時に於て如何にして其健康を保つべきかを吾人に敎へ得る也。彼は或特別の病氣が如何なる不利を與ふるかの條件を說きて吾人を警告するを得る也。國民と雖も之と等しく、情勢の限りなき變化の中に危險の切迫に就て豫戒を與ふる所の現象は絕えす存在する也、常に相等しき結果を規則的に生み出すへき行爲の道筋なるもの存在す、而して賢明なる政治家と稱するは表面に現はれたる相異に欺かれす事物の眞に有する傾向を經驗により觀破し、他が嘗つて難破したる岩礁を避け、即ち來るへきものを先見して危險切迫すると雖も冷靜沈着泰然として之れに備ふるの政治家即ち是なり。

之等の理由より、羅馬共和國の沒落は特に我等に敎訓を與ふるなり。從來存在したる政治組織の內最も永續的のものにして最も有力なる憲法政治は試驗的に設けられ而して之が缺點を發見したり。吾人は其憲法の發達中にそれを見、而して其憲法の

力を弱むる所の原因を知る。吾人は生し來れる弊害を防遏せむとして其方策の失敗に終れるを見、而して何故に之が失敗に終りしやの理由を知る。而して吾人は最後に、愈々其組織が瓦解せむとする危機一髪の時に當り、全部の組織が過激なる活動により一變し而して既に死に頻せし生涯は來るへき權力と有用との數世紀に生き延ひたるを知る也。

自然の協同

動物の腐敗を除き、吾人は工業都市の郊外に於ける濕潤なる踏み溶せる道路の泥濘粘土の如く不潔極まる絶對的の標本を見る能はず。其粘泥は概して粘土（即ち粘土を燒きたる煉瓦粉）が煤煙小砂及び水と混したるを見るべし。總ての是等の成分は相互に力なく相鬩ぎ、交互に各他の性質と力とを、人が踏み附けたる度毎に場所を爭ひ競いつゝ、破壞する也、砂は粘土を壓締し粘土は水を絞り出し而して煤煙は總てに關渉して全體を不潔にす。此泥土の一オンスが全く安靜に置かれ而して其成分を自ら自然に分合するに任すとせは如何、然らば其細微分子は極めて密なる關係に入るべし。

總ての他の物質より粘土を取り離し、之を集むれば遂に既にそれ自身に甚だ美なる白土となり、火を用ひて之を燒き固め、最も見事なる磁器となし、更に蒔繪を施し

て王宮に備ふるに適するなり。併し乍ら斯の如き人爲的細工の結合體は粘土の最良なる性質にあらず、更に靜に放置して其自身の自然結晶の本性に從はしめよ、然らはそれは單に白くなるのみならず更に清澄となるなり、單に清澄となるのみならず更に其硬度を高むる也、單に清澄となり高度を增すのみならず更に驚くへき現象に於て光を反映するに至る也、而して此物より他の物を除きて單に青色線のみを集め茲に吾人は所謂青玉なるものを見る也。

これは粘土の成就せる極致にして吾人は同樣に砂を自然に放置することにより其完成を認め得べし。砂も又初めは白土となり、次に清く堅くなり、而して遂に自ら其自身分合して驚くへき極めて立派なる平行線を作し、單に之は青色線を反射するのみならず、青綠紫赤色線を反射し最大なる美を發揮し如何なる硬き物質と雖もそれを通して見ることを得るなり、吾人は之を蛋白石と稱す。

次の順序に於て媒煙を精選せしむ。之は其自身最初は白くなる能はすと雖も毫の意氣消沈することなくして堅く堅くならむと努め遂に清晴を生する也、而して世界に於ける最硬の物質となり、其有する色が黑色なる代りに一時に太陽光線の全部を反射する力を得るものにして硬度高き物質が能く射出する得る所の最も强烈なる光明を以て反射する也。吾人は此物質を稱して金剛石と云ふ。

最後に水は單に露の滴の形に達せば自ら滿足して、自ら清み自ら結合す。然れとも更に完成せる結合體に達するまで其作用の進行を追及する時は遂に星の形をなせる晶結體となるべし。

吾人は經濟學の競爭に依つて吾人が有したる泥土の一オンスに對し、雪の星の眞中に置かれたるサファヤ、オーパル、ダィアモンドを經濟學の協同によりて得るなり。

偉大なる書物の研究

余は再び云ふ、諸君は之等偉人の眞の目的と教訓とを長き間研究すること能はさるべし、然れとも之等を少しく眞面目に研究するときは諸君は諸君の取れる判斷が單に一時の偏見に過きずして無賴なる思想に生ひたる動搖せる力なき惑亂せる雜草に外ならさるを認めむ。否諸君は多くの人間の心なるものは實に荒涼粗雜なる荒れ野と格別異りたるものにあらさるを知るべし、或は不毛荒蕪の部分、或は苦々し叢荆一面に生ひ蔓れる個所、或は風情なき風の間に〳〵種子を運ばれ斯くて生ひたる不愉快なる野草、誰一人顧みるものなき荒れに荒れたる亂雜なる郊野、諸君が之に對して先つ第一になすへき事及び自ら處するの手段としては根氣よく遠慮會釋なく之に火を掛けあらゆる雜物を大仕掛に燒き拂ひ灰燼に歸せしめ、次に之を耕し之を蒔くにある也。一生涯中諸君の對せる凡ての眞の學問的研究は如上の順序を以て始めさるべからず、汝の有する荒蕪の地を破却し、而して荆棘の中に種子を蒔くへからず（自己の有する頑固偏屈なる雜念を取り去り、然る後、大なる思想觀念を吟味し會得すべしとの意）

諸君が彼等偉大の思想中に入るを得る如く眞面目に大なる教訓者の言を聞くに及んで諸君は更に大なる進歩を爲さゝる可らず、即ち諸君は彼等偉人の心の中に入らさる可らず、諸君が最初に明晳なる觀察に達せむが爲めに彼等偉人に到りたる如く、同しき目的よりして諸君は遂は彼等偉人の正しき强大なる情性を習得享有するを得るに至るまで彼等と共に在らさるべからず。情性若くは意識。余は用語に就て何等囚はるゝ所なし、況んや事物に就てをや。諸君は近時意識に對する多くの叫ひを聞けり、然れとも余は敢て云ふ、そは吾人の要する意識をより少くするを要求するものにあらすして更に多くを要求するの叫たる也。一の人が他より貴く、一の動物が他の動物より高等なるべき其間の相違は明かに此處にあり、即ち一が他より更に多

くを意識すると云ふ事にある也。若し吾人が海綿なりとせは恐らく容易に意識は得られさるべし、若し吾人が蚯蚓なりしならむには、ともすれば鋤を以て、兩斷せられむとし、恐らく意識の過多は吾人の爲にならざらむか。然れとも吾人は人間と云へる動物たるより意識は吾人に重要なり、否吾人は吾人が感情を有すると云ふ事のみに於て人間たるの所以を有す、而して吾人の名譽は取りも直さず吾人の情性に比例するもの也。

余は大いなる而も純粹なる無我の社會に就て述べ而して自負心なき卑しき人は此社會に入るを得ざるものなるを述べたり。諸君は余が此卑しき人と云へる語を以て何を意味するものなりと思惟するや。下卑なる語を以て諸君自身は如何に解するや。諸君は之を甚たしき思想の從者と見るならむ。然れとも簡單に凡ての下卑の本體は情性の缺乏と云ふことに在るなり。簡單なる罪なき下卑は單に無教育なる幼稚なる心身の鈍愚なり。然れとも眞の生來的下卑は全然死せるが如く無感にして、極端なるものは恐怖なく愉快なく憂ふることなく憫れむことなく獸的のあらゆる常習罪惡を行ふに至るものなり。其手は愚鈍にして其心は死せり、其習性は病的にして其本心は無感情なり、斯くて即ち下卑也。是等の人々は永久に下卑なり、その下卑は丁度同情心を有せさる程度に比例す、理解不能の程度や普通の事柄に於て深執なる主張の不可能、而も最も正確なる用語を以てすれば感覺即ち心身觸感の不能なる程度に比例するなり、含羞樹が有する其感觸、無垢の婦人が凡ての動物より以上に有する其感情、佳優にして圓滿なる感情は理性にも想像にも餘り、理性そのものを導き、理性其ものを神聖にす。理性は單に眞は何ぞやを定むるものなり、理性は神が人類に與へたる情性にして神が定めて善となせしものを認むることを得るに過ぎざる情性也。吾人は斯くて無我の大なる合體に來れり、單に之により眞は何ぞやを知らむが爲めのみにあらず、又一方には主として正義は何ぞやに就て意識せむが爲なり。さて吾人が無我の合體より意識する所あらむと欲せは吾人は其境にあらざるべから

ず而も何人と雖も忍苦を拂はずして其境に至る能はざる也。初めて生したる觀念にあらずして既に鍛へ上げたる鑑識を通したるものが眞の智識なるが如く、同樣に眞の情性は初めて生じたる情性にあらずして既に鍛へ上げたる鑑識を通過したる情性也。其初めて生しだるものは空虛にして虛僞にして依るべからず、若し諸君が此初めて生したる情性を信し之に依るに於ては遂に放埒に誘はれ無益なる追及に於て空虛なる熱心に於て遠く拉し去られ、遂に諸君は一の眞目的を餘さず、一の眞情性を殘さゞるに至るべし。人類の有し得へき感情の何れも其自身惡しきものにあらず、單に其感情にして修養なき塲合に於てのみ惡しきなり。其尊しとする所は其力と其正義とにあり、そが無力なる時に於て、卑劣の目的の爲めに感せられたる時に於て初めて惡なり。子供が手妻の投せる金球を見たる時の驚きの如く世の中には斯る卑しき驚きあり、諸君が之を下品なりと云はむと欲せば即ちそは下品なり。然れども諸君は、情性の少きより生ずる此下等なる驚き斯る下等の驚きを以て各人間の心は彼等を造りたる神の手により暗黑を通して投げ上げられたる天の金球を眺めむとせしめらるものなるを思はさるや。

子供が開くを禁せられたる戸を開かむとし、從僕が主人の仕事を覗き見むとするが如き種類の下等なる好奇心あり。而して貴き好奇心は危險を冒して濱の向ふに流れる大河の源を知らむとし、海の向ふに横れる大陸を度り知らむとす、尙は貴き好奇心は人生の河の源を吟味せんとし、天の大陸の限界を度り知らむとす、之れ等は天使の看破せむと欲する所のもの也。同樣に又下等なる不安あり、人々は之を以て無稽なる言議の道程や又其異變の間を徨ひ廻る。然れとも諸君は悶へたる國民の生涯に於ける運命定數の決定を見、若くは見ざるべからざる其不安は、比較的少なりと思ふや、比較的大なりと思ふや。サテモ〳〵今日の英國に於ては嘆すべし、世人の有する情性の狹少なる氣隨なる微弱なる、情性は其自身を花束や言葉の上に、或は酒盛遊宴に或は詐欺的勝負事に而して華美なる裝飾に費し、其間に諸君は、其處に

努もなく涙もなく、子供は子供により、婦人は婦人により、男子は男子により貴き國民は屠り去られたるさまを目擊するを得む。

余は情性の微弱、情性の氣隨と云へり、然れども一言を以て余は之を情性の不正、情性の不當と云やべきものたりし也。何となれば特に必要なき限り紳士を賤しき人間より區別するを可とする如く善良なる國民は暴徒と混合せしむるよりも之を區別するを可とする也。彼等の感情は不變にして正しく、合理的考案の結果たると共に平等思索の結果なれば也。世人は暴徒を如何樣にも評するを得べし、されど其感情は概して云ふ時は一般に大度にして正當なり、然れども其感情は根據を有せす基礎を有せす、されば人は之を窘めむと欲せば窘むるを得べく、調弄はむと欲せば調弄ふを得べし、其感情は大部分風邪の傳染する如く傳播し、而して其發作を開始したる時に自ら荒ら荒らしく吼り廻るが如きことなかるべき點に於て何物よりも小なり、其發作が經過し去りたる時に忽にして之を忘れ去るべき點に於て何物よりも大なり

然れども紳士や善良なる國民の有する情性は正當にして節度を有し永續的なり。

同情

諸君は吾人が最も幸福と考ふる人々の前に花を撒布する吾人の習慣には如何なる深き意味を包含するものなりや又少くとも若し、吾人が之を解釋せむと欲せば如何に之を解釋するを得るやに就き嘗つて思考したることありや。諸君は之を以て幸福が常に彼等の足もとに花が落ち下るが如くバラバラと落下し來るべき希望の下に彼等(花を撒き掛けらるゝ人々)を欺くに過ぎざるものと想像するや、即ち彼等の通行する處は何處にても馥郁たる香氣の草を踏み、粗末なる土地は薔薇花を堆積して彼等の爲めに平滑にならしむるならむと思ひ誤らしむるものと想像するや。縱令斯く彼等が信するにしても、却つて其實は辛き草や荊の上を歩行せさる可らざるは明にして彼等の足に柔らかに觸るゝものは單に雪のみに過きざるべし。然れども此花を撒く習慣に斯る意味を附するも世人は之を信せざるべく、此舊慣に就ては更に良好な

る意味ある也。淑女の通路は實に花を以て撒布せらる、然れども世人は彼女の歩みの後方に立ち、前に立つことなし。彼女の足、牧場に觸れ而して淡紅色の雛菊を殘せり。汝は斯の如きは戀人の空想にして虛僞なり空語なりと思はむ。何でそれが眞實なるを得む。汝は又恐らく次の行を以て詩人の空想に過ぎざるものと思はむ、

優しき山小菜ですら彼女の嫋かなる歩みより、やさしき頭を擡げぬ。

然し乍ら婦人が其通過したる所を破壞するものにあらざる事のみは殆んど言ふを俟たず。彼女が通行する時に彼女自身は生氣附き、山小菜は萎み屈することなく開花するや必せり。諸君は余が亂暴なる誇張法により說述せんとするものなりと思ふや。乞ふ恕せよ、決して決して、斷乎たる眞理に於て語る所の穩かなる英語に於て余は述べて居る積りなり。諸君は花は單にそれを愛する人の庭園にのみよく榮ゆると云へる事を聞けるならん(而して余は其言の中にも空想以上のものあるを信ずるものなるも、兎に角それを空想のものとして置かむ)。余は諸君がそを眞なるを好むなら

むと期せり、諸君は若しも其花の上にやさしき眺めによりて美しき花に諸君の花を赤らましむるを得るならばそれを愉快なる魔術と思ふならむ、否更に、若しも諸君の眺が單にそれを賞讃するのみならず又それを保護するの力を有するならば、又諸君が凋萎を去らしめ、而して強く固着せる毛蟲除去し得るならば、もし又旱魃の時に其上に滴る露を招き、霜降る秋に南風に向ひ、ヤヨ來れ汝南風よ而して我庭園に香氣流るゝやうに其上をソヨ〳〵と吹けと命し得るならば…。汝は之を大なる事と思へるや。而して汝は是等より更に美しき花に對して汝が爲し得る凡ての之れを更に更に大なる事にあらずと思へるや（而して之より以上に幾何ぞ！）、花其花は汝が彼等を祝福せし代りに汝を讃美祝福するを得たらむ、而して自ら愛せられたる代りに汝を愛するならむ、花其花は花の目と同しき目を有す、汝の如き思想、汝の如き生命を有す、一度の救ひは永久の救ひ。之れ豈單に小なる力ならむや。遠く澤地の中に岩壁の中に、恐るべき遙か街路の暗闇の中に、是等の弱々しき小菊は其青き葉は裂かれ其莖は壞されて横れり、汝は斷して彼等哀れなる小菊に近かむとはせさるや如何。

ナポレオン・ボナパート

ナポレオン・ボナパートは極めて強大なる自負心を以て其特色としたり。彼は其智識と其意志に於て怪力を有し、之を以て無數の競爭者や無數の献を抑へ附け、到底打ち勝く思はれたる障碍を壓伏したり。而して此怪力は遂に彼をして自ら人間以上の偉物を以て氣取らしむるに至りたり。彼は己れの不思議なる成功や人間以上の偉物として殆んと狂的の信念を以て高まりたる一般的無限の稱讃とにより其自負誇大心の強き本源的傾向を增長したり。彼自身の考よりすれば彼は他の人間と異りたる種類のものたりし也。彼は人間の標準を以て律せらるへきものにあらざりき。法律や義務は凡ての他の人々を服從せしむべきものなるも彼のみは之に從はしめらるべきものにあらざりき。自然の意志も人間の意志も彼の力に服從せざる可らざりき。彼は幸運の寵兒にして縱令運命の主人にあらざりしとするも其主なる目的となりたるものなりき。彼の歴史は開明時代に於て比類なき自負の精を示せり、而して、そが吾人をして神の如く生れ落ちるとより香を燻したる或る東邦の國王のことを聯想せしむ。

彼の罪業の源も玆に在るなり。彼は一般人間の通有性なる感情を缺きたり。彼は彼の同胞に對し同情心を有せざりき。同胞博愛の心は眞の偉人には特種の强さを以て發達し居るものにして、之あるが故に人類の利益の爲めには喜んで其身を犧牲に供するなり、斯る心はナポレオンには藥にしたくも見出すを得ざりき。彼の心は凶暴に鼓動し、決して清き愛の鼓動を有せざりき。人間相互を連結する結節をば彼は切り離し、道德の力や博愛の感情を以て自己の利慾心を去り以て得べき適當なる幸福をば彼は暴君の寂しき喜びの犧牲として放棄したり。彼は大慈の神の名譽ある代表者或は使者となり得へき力と、而して赦々たる德を以て高まるへき感動の自然の心とを以て而も却て己れの同胞國民と離れ國民の愛と尊敬と滿足とを棄て去り、遂に

は不安の凝視と恐怖や驚愕の焦點となり、而して此利己心の爲めに唯一の幸福は平和と不滅の名聲より離れ去りぬ。

其同胞國民の上に跳梁せる暴慢なる增長は彼の處世の發端に於て生じたり。伊太利に於ける彼の初めの成功は彼をして君主の氣風を得せしめ、而して彼は此氣風をば息を引き取る瞬間に至るまで捨てさりき。彼が話談の間にも宣言をする場合に於ても自ら高大を僭したる其生來の態度は何人も之を驚かざるものあるなし。我々は彼が殊更高大なる風を裝ふて居つたものとは思はざる也。彼は彼の高慢なる要求に於て己れの眞の心より且つ己れの國語を以て言をなせり。彼の態容は彼の眞の要求をばなしつゝあるかの如く堂々たるものにして決して附會したる態度にも隙を有する態度にもあらざりき。彼は神力を僭し神の使徒たるを僭したるが如き愚物不敬の擧に出でたる場合と雖も尙ほ且つ己の性格と勳功との中には其侮慢的態度に色彩を與ふべき或理由の存在するものなるを心に信じたるを示し居れり。世界的帝國の建造は或程度まで己れの義務の如く彼は考へ、之を以て彼の意志に一致すべきものと思惟したり。而して彼は彼の連戰して征服せることを以て自己定運の履行と云ひし時に何等冗語を用ひず確乎たる信念を有する言語を以て云ひ放ちたり。ボナパートの性質の內最も著明なるは其決斷力なりとす、而して此決斷力は前に述べたる彼の强大なる自負心が凝り固りて如何にするも動搖せざる頑强なる信念に依りて形成せられたるもの也。彼は一擧するや必ず突進せり。彼は己れの意志は他に取りては自然法若くは神勅の如く思はしめむとしたり。斯くては何事も成されざる筈なし。之に對する反抗は益々其力を强むるに過ぎず、而して度々種々なる反抗を彼は壓伏し、爲めに彼をして自己の比類なき智力に結合したる金鐵の意志は向ふ所天下敵なきを思はしめたり。斯る心を有する以上人智の警告も神の戒告も何の効驗かあらむや。而して運命の人は、彼自身は然らずとするも、最高の不變なる決意を確乎不動に示す所の金鐵の如き決斷力の愚弱を他に敎ふる爲めに生きたるもの也。

戰爭と同胞主義

予は一度ならず戰爭といふ事について論じた。此論題は人の言ふ如く言ひ古るされた論題ではあるが、而も之は平凡な問題となるには餘りに重大なる問題である。戰爭といふ此狂氣は終に息むことがあるだらうか。國家の名譽についての間違つた觀念は、決鬪家の抱いてゐる樣な觀念と同じく全く間違つた天を畏れざる觀念であるが、實に此觀念が戰爭といふ狂焰を煽りに煽り拔いたのである。大國民は大きな子供の樣に侮蔑を防ぎ、善く戰ふ事を自分の名譽だと思ふて居るものである。或は國民が卑怯でないといふことを證明するが爲に武器を執る時代は已に過ぎ去つたと思ふものがあるかも知れぬが、歷史の敎ふる所によれば、最も野蠻な時代から最も開化したる時代に至る社會のあらゆる發達の段階中、國民は常に武器を執つて起つに足る程に勇敢なものであるといふことが解る。如何なる人民も己の勇猛たることを

示すに足る程の血液を流さなかつたといふことは己の良心に堪ゆるものでない。これは直ぐ解る事で、例へば戰場に有り勝ちな刺戟を受けてさへ、之に臨むだものは敵の砲火に堪ゆるのを見ても明かである。然しながら、今は已に國民の名譽に對する觀念が或變化を受くべき時代ではなかうか、少くとも一國民の眞の榮譽といふ觀念の或ひらめきが、君主にも人民にも起らなければならぬ時代ではなからうか。

「人間の名譽とは侮辱を看過すること也」といふ語があるが、之は國家に對しても同樣である。辱められるのは不名譽である。然しながら。和解の凡ての手段の盡くる迄も、悠然として侮辱を忍び、此動機は必ずや他國民の諒とする所となるべきを信じて、確乎として彼の恐るべき同胞相喰の慘劇に手を下さず、卑怯なりとの誹謗を喝破することを眞の勇氣なれと深く自ら內に覺りて、而かも人類には蠻民の力よりも更に大なる或物の存するを想ひ、自國に對すると同じく全世界に亘つても平和あれと希ひ、世界を包むかと思はるゝ戰爭といふ焰火を放つことを敢てせざるこそ、

實に主義としても感情としても一國民の名譽を致す所のものである。

予一個としては、予は如何なる語でも云ひ表はし得ない樣な恐怖を以て戰爭といふものを眺めて居る。若し世界が私の心を以て心としたなら、誰れも榮譽の爲めに戰爭をするものはないであらう。何故なれば予は將軍としてより外に他に別に尊敬すべき理由のない將軍の名は之を口にしたことはないのである。かういふ人には毫も同情することができないから直ぐに忘れて了うのである。同じ神の性を享けた人類が其同胞から屠らるゝと云ふことを思ふ時。海と陸とが人の手により人の血を以つて汚されるといふことを思ふ時。又は攻圍された市街の殘墟の中に埋められた彼の女子や小兒を思ふ時。或は又、國の物資と自然の偉力とが人間の毒惡なる意思の爲めに、凡て苛責と破壞の器械と變ずることを思ふた時。此地球は忽ちに地獄の樣になる。

予は今一國民と他國民との戰爭といふことを云つて一度やつた如くに輕卒に話すこ

とはできぬ。其國民といふものは私には最早一つの無形なものではない、空漠な群集ではない。無限の興味ある形と關係に於いて私の眼前に個々の人物となつて展開される。夫れは私が自分の家庭を愛すると同じ樣に互に相愛して居る夫や妻や親や子供から成立つて居る。或は又吾等が其勞を分かたむとし其負擔を輕うせんとし其地位を高めむとする所の、犁鋤にすがり、工場に働いてゐる澤山の勞働者である。或は又其人の著作が吾々の寂寥を慰め、吾々の智識と情緒とに生命を與ふる所の科學者美術家並に天才である。此等の人か吾等の戰はなければならぬ國民である。吾等は此等の人の家族に吊辭を送らねばならぬのである。吾等は血を以て此等の人々の衰亡を要めなければならぬのである。予は神より明かな命令なしには此等のことを行ふことはできぬ。

予と雖、若敵國が其權利とか自由とか或重大なる利害問題に關して何等藉口する所なく唯威嚇的に我國を侵擊するならば、予は恰も予の愛藏し及び予の保管する物品

を却掠せんが爲に予の家屋に侵入せんとする賊を防くが如く、飽くまでも彼等を驅逐をせむとするものである。然れども予は此の塲合と普通の戰爭とを混同することはできぬ。普通戰爭なるものは野心家の仕事である。野心家が戰爭を起すには固より理由もあらうが、其理由は一般社會の思想から考へれば何等の依り處もないのであつて、其政策は、たとへ自分一個の私見から或は黨派の利害から割出されたものでなくとも、見るべき色彩を有つてゐる。野心家は單に感情の爲に平和を求めない。彼は己の地位を危しと見た時には、之を强固にせんが爲に故らに外交關係を紛亂せしめ、內外に猜忌を廣めて、人民の戰爭熱を煽り、終に引くに引かれぬ羽目に立ち到らしめ、而して公平なる審判者か容易に解決することのできた事件を、强いて干戈に訴へて之を決せんとするのである。

何をか良史といふや

英國の其時代の歷史に關してボスエルの氏著書が他の多くの著書よりもしつかりした識見を有つてゐると言ふても、夫は實際間違がはぬ眞面目なことで決して浮誇な言ではない。而かも其等の著書は自ら歷史たるの特殊の目的を有つてゐるとするのではあるけれども、實は歷史の名を冒すに足らぬものである。

ジョージ三世といふ男が生れて育て上げられたとか、ジョージ二世といふ男が死んだとか、ワルポールやペルハム兄弟やチャタムやノースが彼等の合同內閣や分離內閣で互に逐ひ出しくらをやつて、「彼等自らは政府の梶だといふが實は課稅の栓に外ならぬ物」を烈げしく拾ひ合ひをしたといふ樣な事を、スモレットベルシャム輩の如き多くの歷史家か喋々しても我等に何の利益があるか。

討議があつたとか、怒罵叫喚が起つたとか、又は道路法案や圍障法案や、狩獵法案

や印度法案や及び幸にも少數の人が暫時頭を惱ませばすむやうな無數の法律が制定されて王室統計局で印刷されたとかいふ事や。彼は衡平法裁判所に地位を有つて居つて投機をやつたとか、一時は斜視であつたとかなかつたとかいふやうな事は、飢え渇ひた心には何の益に立つか。此等の人物及此等の事件は或は力により或は特に輕いといふことによつて、潮流に浮ぶ林檎の如く實際游いてはゐる。夫生は我等も知つてゐる。然しながら汝は斯樣な下らない浮游物の於向と洄漩と動搖とを以て潮流其自身の性質を解釋せんとするのか？彼の宇宙の基礎の如くにも似て底を見す、造物者の如くにも神秘に高か捲き高か鳴る其人生の潮流を解釋せんとするのか？予の親むと欲する所のものはレヴドブックリスッてはない、コートカレンダでもない、パーリアメンタリレヂスターでもない。英國に於ける人間の生活である。人々の行ひ、考へ、苦しみ、喜むた所のものである。彼等の現世に於ける生存の形式、特に精神である。生存の外圍と內部の主義とである。其形式と性質とである何處より生じたが、何處へ赴いたかといふことである。

專門家に「歷史」と呼ばれる所のものを見るのは實に悲しい事である、此開明な時代でも猶然である。先づ眼の續く限り書物を讀むで見ろ、而して汝は試に其書物から次の如き問題即人間は如何なる生活を爲したか及び其生存の性質は如何といふ其大問題に對する答案を求めて見よ。例へば唯經濟上の問題でも宜しい、彼等は幾何の勞銀を得たか及び其勞銀を以て何を買ひ求めたかといふ問題に對して、果してぼんやりした影でも可いから其解答を求め得らるゝであらうか。不幸にして其解答は得られない。歷史といふものはかゝる事實に光を投げるものではない。生きた記憶の缺けた點については、歷史といふものは凡て暗黑である。臺所の暮し向きは今よりは良かたらうか惡かつたらうかといふやうな過去の事實の尤單純な事柄についても、經濟學者たるセニヲル氏やサッドラー氏は猶且議論を上下せねばなるまい。歷史が金端の書冊の內に綴り込められてしまつた時には、夫は唯陰影に過きぬもので

あつて、バックガモンボードのつまらぬ書冊より少しはましな丈である。如何にして我首相が任命されたかといふことは、予に取つては予の家僕か如何にして備ひ入れくれたかといふことよりもつまらぬ事である。此等の時我に在つては王や廷臣の普通の十冊の歴史は書藉店に在る良い一冊の歴史の十分一頁と交換した方がましである。

例へば予がスコットランドの歴史を知りたいと思ふ場合に、何人か此歴史を語つてくれるだらうか。無數の人がロベルトソンを讀めといふ、誰が何と言ふても可いからロベルトソンを讀めといふ。そこで私はロベルトソンを開いて見る。書中には美術工業殿堂學校と制度と詩と精神と國民的特質とを有つて爲る此美くしきスコットランドが何人により如何なる方法を以て何時如何にして創造せられ開拓せられ、又特殊なるものとせられ偉大なるものとせられたか、—(スコットランドの美くしい或一部分は玆エジンバラのカッスルヒルから眺めると、親しげにも力強くも(バッカスの馴したライオンの如く見える)といふ問題に關しては何等の解答を見出すことができず。唯王が其時代には如何して命を保つて居つたが、又は澤山の屠數者の如き貴族共や貧婪なる從者共が互に相呑噬を逞ふした爲め終には自分達の滅亡を恐れてお互に制限を加へて、其爲に殺戮も多少手加減して行はれたといふ樣な事柄について、狡猾なる解答と臆説とを見出すことができるのみである。實は此時代の事柄は余りに混亂して居るので、唯梗槩を擧げて正味の處丈を論じれば可いのである。若し眞の歴史を知らむとするならば、こんな些々たる記述よりも昔エネアス、シルピウスがスコットランドから出した短信を讀むだ方がいくら益になるかもしれぬ。兎に角予は讀むで宗教政革の最も興味ある光彩ある時代に達した。此時代のスコットランドは全國を通じて覺醒し動搖して居つた。新しきものに生れ變らうとして醱酵し悶かきに悶かいて居つた。遠き森の中に家畜と交つて居つた牧畜者も。粗糙な仲間と共に、ヒース葺きの粗末な細工場に働いて居た職工も。貴きも賤しきも皆新

しき光明を認めた。町に於ても村に於ても寄り集つた群集は物言ひたげな顔をして或は愼ましやかに或は憚る所なく議論を交へて居つた。貴賤を問はず皆一齊に王侯に反抗して神の爲に戰ふべく起つた。

玆まで讀むで來た余は殆んど息もつけぬばかりに興奮して尋ねる。行うしたのか、それから何うなつたか。早く說き明かしてくれ、見せてくれ、知らしてくれと。すると其返答として氣樂過ぎた美人のメリー、スチエアートと奇麗な足を有つてゐた馬鹿者のヘンリー、ダーンレー兩人の年代記が渡たされた。其內容に實に優美で極めて人の心を悅ばすものではあるが、又醜陋卑しむべきものであつた。此兩人は初めは誰憚る所なく相媚ひ相欺き痴話の限りを盡したが、扨次ぎには口を尖らしぢれにぢれて全く怒り狂ひ、終にはお互に彈藥の爲に吹き飛ばされて了つたといふ。之が予のをとなしく辛抱して讀むだ所のもので、而もスコットランドの歷史ではない。加之、此馬鹿物を爆殺したのは其美人であつたとかなかつたとかいふことを證據立てる爲に、馬に積むでも可い位澤山の書物が他の人々によつて書かれて居る。誰であつたとか何であつだとかいふ樣に、只一度其丈の爲に起つた事柄は余には別に關心のことではない。其大變に際したスコットランドを了解することが貴むべき智識の增加である。憐むべきターンレーを知るのは、燃えた燭燭を持てる彼を見るといふ事は徹頭徹尾何等智見を增す所のものでない。即ち之が歷史に書かれたる事柄である。

是に於てか、「無數の傳記の膸」となるべき歷史は何れの點を檢しても、眞物の傳記よりは、面白くないもので獨殊の味のあるものであるといふことになる。歷史が全く異つた主義で着手せらるへき時代は近きつゝある。朝廷や元老院や戰場の記事が漸次後景になつて行けば行く程、殿堂や工場や公共煖爐が益々前景となつて現はれて來る。而して歷史は課稅及治安の問題に解答を與へるのみを以ては甘んせず、進むで別なもつと廣い高き問題即ち人類の生存の形式及性質の問題に解答を爲さむと

試むるであらう。

政府とか吾々の日々を送つて居を議會とかいふもの計りではない、問はむと欲する所のものは吾々の其處になした生活其者である。

此生活といふもの丶中には現時使用さる丶意味で云ふ政府といふものは畢竟するに第二位に屬するものである。課税とか治安とかいふ計の意味では政府といふものは小さい全く憐むへきものである。兎に角ボスエルの如き書は其度に從つて吾々に獨自の貢獻をなすものであるから、其書か杜撰孟浪ならざ限り幾何ても歡迎すべきである。

政治と道德 終

政治と道德

大正二年五月一日印刷
大正二年五月五日發行

定價金二十錢

著作兼發行者　清水米吉

印刷者　東京市麹町區下六番町十七番地　松澤玟三

發行所　東京市牛込區早稻田鶴巻町四四三　文影堂書店

印刷所　東京市麹町區下六番町十七番地　同勞舍

賣捌所　有斐閣　同文館　寶永館　敬文堂

339
208

文影堂發兌書目

早稻田大學教授 安部磯雄著 **應用市政論** 定價金一圓二十錢 郵稅金十二錢

田中、青柳教授序 **支那國債と列强** 定價金七拾錢 郵稅金六錢

大山嘉藏著 シユウイル原書 **佛蘭西大革命** 定價金六十五錢 郵稅金六錢

與謝野晶太郎譯 片山伸序 小川未明作 **白痴** 定價金壹圓拾錢 郵稅金八錢

之は小川未明氏の近著である。著者は片上天絃氏の序文にもある通り小兒素に富んだ人で、その觀察に特殊の他の模すべからざる點がある。筆力は益々加はり來つて、群作家を抽いてゐる。本書の中には白痴、なぐさめ、殺害、はこやなぎ、血塊、都會、白き花咲く頃、孤獨、樂器、思ひ、暗夜、虛僞の顏、白い路の十三篇が收めてあるが、中でも白痴、なぐさめ、殺害の三篇は長編である。氏の作が唯の空想を遠ざかつて、現實の中に溶け込んだ詩想を、情味の深い筆で現はすことが近來目立つて來た。注目すべき出版物だ。裝釘の氣の利いてゐることも亦刮目するに足る。（東京朝日批評）

339
208

終